

日刊 動労千葉

82. 12. 30
No. 1233

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

動労千葉の路線の正しさを証明した

勝浦支部執行委員長 鶴岡直芳

83年は、政治決戦の年と言われます。動労千葉の主体制をさらに拡大し、中江組織内候補の必勝と動労「本部」革マル反動分子の絶滅を期するなかで、動労千葉の真価を発揮する絶好のチャンスと言えます。

（共にスクラムを組み、前進する動労千葉と国労共闘の仲間たち。10・11三里塚闘争）



（いざ、八三年「三里塚—国鉄」決戦勝利へ!! 第七回大会・9月30日〜10月1日）

低迷する労働運動総体のなかにおいて81・3闘争を闘い抜き、三里塚と国鉄を結ぶ動労千葉の路線の正しさをはっきり示した年であったと言えよう。動労「本部」革マル反動分子の「中黒」合理化、ブルトレ返上、働け運動、そして大胆な妥協は公然の誤りとして浮きぼりにされ、「57・11ダイ改」を頂点にあらゆる階層から孤立化し、動労千葉が分離・独立も辞さず闘い抜いた正義性を自ら証明したと言えます。

一方、「国鉄赤字」を理由とした政府・自民党・国鉄当局は、マスコミ攻撃を皮きりに一切の既得権剥奪等、職場生産点を直撃し、あらゆる反動が政治に直結した攻撃として浮きぼりにされました。

“ 天気が悪くても悪くても ” 闘う

の が 労働組合 成田支部執行委員長 日暮 明

一九八二年も残り少なくなりました。この一年間は全マスコミを総動員した、国鉄攻撃、とりわけ既得権はく奪、国鉄労働運動つぶしに終始した一年でもありました。われわれ動労千葉が、81・3ジエツト闘争を闘ったがゆえに開始されたさまざまな反動を、一つ一つ粉砕してきた一年でもあります。6・12デッチ上げ、告訴、81・3闘争に対する一方的処分、小川建二のタレコミによる、六名の仲間への出頭命令、成田駅暴力デッチ上げ策動など権力、国鉄当局、動労「本部」革マル一体となった、組織破壊攻撃を支部の総力を結集して粉砕したことを確認することができず。一方、動こう運動、ブルトレ旅費返還、最近では、57・11ダイヤ「改正」の実施に伴う労働条件に関する協定や現場協議に関する協約の改悪



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ!

'82年 一年間をふりかえって 枝部長に献④

今号をもって、本年の「日刊」のしめくりといたします。新年は8日県労連、9日反対同盟、10日青年部、14日動労千葉が各々旗開きをもって闘いに入ります。「日刊」は元旦号のあとは、7日号より通常にもどります。それでは皆さん、よいお年を!!

